

仲田泰祐様 ご講演  
研修生からのアンケート

財務省秘書課調査係

この度は、ご多忙の折、当省新規採用者研修にてご講演を賜り誠にありがとうございました。以下にて、研修生からの感想をまとめさせていただきました。

- 短い目だとトレードオフだが長い目で見るとそうじゃない、とって考えが勉強になった。EBPMも大事だが、データに頼りすぎるのも良くないという点は何度も聞いていたが、それは自分のキャリアで確かめたい。一方、データを見て話せるようになったほうがよいのでその点も勉強したい。
- モデルを用いた分析という、自分にとってはあまり馴染みのなかった範囲について知見を深めることができました。モデル分析を用いることで生み出せる政策的な示唆、「命の価値」のような議論は非常に興味深く、モデル分析というものの可能性（そして限界）を今までより理解できるようになりました。
- WTP の考え方は非常に興味深い一方で、命の価値について適用するのは非常にセンシティブであると感じた。政策当局として命の価値を明らかにし、それを政策立案に活用することは国民の潜在的な嫌悪感を惹起させうる。一方で、そのような明確な経済基準等がないと政策の立案・実行における一貫性が担保されないだろう。  
また、WTP 自体の妥当性も疑問を感じた。各個人の所得階層によって命へのWTP も変わるであろうし、それが所得状況で補正がかかるとしてもそもそも人間に命の価値がわかるのか、という根源的な問いは尽きることがないと思われる。
- 「ほとんどのことについてはモデルではできない」とおっしゃっていたのが印象的。政府がモデルによって何かを予測すること自体は有意義でも、それがそのまま意思決定に、とはならないのだろうか。税収予測なども「モデル」の範疇に入るのだろうか。
- 財政当局が経済モデルを利用する際にモデルの限界を認識しつつ政策に応用していくべきだというお話が印象的であった。政策立案において、こうすれば結果が出るという根拠を持つことは非常に重要であり、経済モデルは有

効な指標となると思う。どのようなモデルがどれほど現実に即したデータをもたらすのか、それをどう政策に生かしていくか、経済学の知識不足で、詳細の議論を自分で理解しきれなかったので、経済学を学んでから改めてモデル分析について考えたいと思った。

- 新型コロナに対する緊急事態宣言の発出による経済損失と累計死者数の二軸グラフによる解析のお話がありましたが、二軸グラフから評価関数をもとに最適な解を導き出すことをしていないことを最初疑問に思いました。しかし、理想化したモデルによる解析であることや、政治的な意思決定に関することから最も重要ともいえる経済損失と累計死者数をそれぞれどれほど重視し、どれほどのコストを許容できるかという部分に対して疑問符が付いてしまうような回答を与えるよりそのまま二軸のままの方が情報量としてのアドバンテージが大きいことに気づきました。また、今回の講演でお話いただいたように、定性的なパレート改善の解決策の存在を示すというのは、意思決定の場においても誰が見ても比較結果が同様になるという点で重要な発見であると思いました。政治的意思決定に近い領域においては、アカデミックの世界の論理を完全に意識するのではなく情報の受け取る側の論理についても意識したいと思いました。
  
- 経済学に不得手の私にとっては、理解に時間を要する内容であった。だが、印象に残っているのは、いくらモデル化に努めようとも、世の中にはモデル化することはできないものも多いというご指摘だった。近代 (modern) という時代は、その語源からも分かるように、何事もモデル (model) 化したがる時代である。さらに言うと、それを大量に流行 (mode) させる時代でもある。モデル化され、単純な構造となったものが大量に流行する (例としてマクドナルド・ハンバーガーが挙げられよう) のは、今に始まったことではない。しかし、個人の行動も意志も選択も、本質的には大いに不合理的で、感情的なものも含みうる。また、そうしたものでは語られ得ない「長年の勤」や経験値も、世を動かし、支えている重要な要素であろう。僭越ながら私見を申し述べると、経済学という学問の今後の重要な課題は、そうした人々のモデル化し難き経験的知見や、それが時間の効力によって堆積したところの歴史的常識を、いかに国民経済発展の礎として位置づけるかということについて考えることではないだろうか。
  
- 率直に言って経済学、統計学にそこまで明るくないため、どこまで講演内容を理解することができたかということについては全く自信はないが、それで

も経済学をつかってこんなことをすることができるのか、という経済学の可能性の一端を垣間見ることができたのは収穫だったと思う。クライシスの際には不確実性の中での意思決定を強いられるわけだが、そのような中でもやはりどのオプションがより妥当なのかということは議論されなければならない。その妥当性を検討するうえで、本講演で緊急事態宣言や病床数を例にして示されたマクロモデルの分析というのは、ロジカルな政策論をする上での土台を提供するものになるだろう。4年目には経済理論研修を控えているわけだが、それに向けてのいい動機付けになったと思う。

- 冒頭の中央銀行のモデル分析、本題である感染対策と経済のバランスに関するモデル分析のいずれも、中央レベルの政策的意思決定とマクロ的な経済動向との関係性に軸足をおく見方であり、日頃業務の一環として米国FRBの政策金利をめぐる動向に触れる機会が多い自分にとっては全体として興味深い内容であった。
- 現状、経済学関連の知識が不足しており、すべてを理解できなかったのが大変残念ではありますが、実務だけに閉じるのではなく、アカデミアとの関係も今後大変重要であると考えているため、そういった部分を改めて再確認できたのではないかと考えております。  
国際機関での勤務に関しても興味を持っており、今後数理モデルなどの知識は最低限基礎的なものだとしても入れておきたいと考えております。
- 仲田様から新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言等の施策と経済への影響についてのモデルをご説明いただいた。統計モデルへの素養を欠く自分には完全な理解には及ばなかったものの、モデルの組み方は、定量的評価に用いるか定性的評価に用いるか、その目的に応じて様々であることを学んだ。また政策判断や政策評価の場面で、モデルを用いることで政策手段の比較をしやすくなり、実践的に活用できることを体感した。
- モデルの「コミュニケーションツール」としての役割について理解でき、自ら分析を行うだけでなく相手のいっていることを理解するためにも、経済的なリテラシーを高めていくことは非常に重要であることがわかった。話の中では特に、モデルを使って分析を行っている方々の中でも、経済予測や疫学的分析等守備範囲が明確に分かれていることが印象的であった。また、米中央銀行でモデルを用いた経済見通し等に携わってきた仲田様であるからこそ、一つのモデルに頼りすぎてはいけないということ、またモデル分析その

ものに頼りすぎてはいけないというご発言に重みを感じた。

- 短期的にはリスクを定量化・可視化させ政策の選択肢を分析する、中長期的にはシミュレーションを行うといったモデルを使うことによって政策の決定につなげていくあり方について理解を深めることができた。財務省では、そこまでモデルによる分析は行われておらず、今のところは公表された指標をもとに考える機会のほうが多いが、学術的にモデルによって分析された論文や資料について感度を高くして把握できるようにしたいと思った。
  
- 経済についての素養がほとんどなく、質疑応答の趣旨など理解が及ばない部分も多かったので、これからしっかり勉強しなければならないと痛感しました。  
その一方で、専門家の方に知識量で勝つことは難しいと自覚したうえで、専門家に頼ることもとても重要であると感じました。課長や室長からの1年目へのアドバイスとして「わからないことは聞く」というものが多かったように思いますが、何歳になっても自分がわからないことはその道の専門家に頼ってみるといふ態度は大事なのではないかと理解しました。
  
- FRB でのマクロ経済モデルの使用例や、コロナ対策へのマクロ経済モデルの応用について学ぶことが出来た。緊急事態宣言の発動タイミングが結果的に経済損失や死者数に大きな影響を及ぼすこと。具体的には、新規感染者数ある程度抑えたうえで緊急事態宣言を発動することで、緊急事態宣言の発動回数を抑えることができ、経済損失と死者数を両方ともに小さくできる（パレート改善）ことが分かった。これは大変興味深く、重要な政策含意であると感じた。コロナ禍のような前例のない危機の下では、政策形成に際してマクロ経済モデルのシミュレーション結果は重要な参照点として機能するのだと実感した。他方で、マクロ経済モデルの予測能力には限界もあり、超短期的な予測には向かない点も否めない。政策当局者として、様々な情報ソースに依拠し政策形成を下支えしていきたい。
  
- コロナ対策と経済の両立という、言葉としては何度も聞いていたが、そのバランスをどのように取るのか判断が難しい点について、計量経済学の知見からお話いただき大変参考になった。日本の資源に限りがある中で、より良い行政サービスを実現するためには、EBPMをはじめとして計量経済の知見は非常に重要になると実感した。そのためにも、三年目の経済理論研修の際に、計量経済学の専門家とまではいかずとも、その分野に関するリテラシーを身

に着けられるようになりたいと強く思った。

- マクロ経済モデルをどのように政策に生かしていけるか、コロナ禍における医療と経済活動の両立をテーマにその具体的なあり方を知ることができたのは、非常に興味深い経験だった。緊急事態宣言を例にとっても、その発出によって短期的には大きな経済的打撃を与えるものの、中長期的にはそうとばかりもいえないというのは、直感からは直ちに導ける結論ではなく、面白さを感じた。
- ご多忙のところお越しいただいたのに、失礼ながら、理解していない部分が多い。が、直観や「風を読む」ような能力を買いかぶりがちな私にとっては、大変意義深かった。特に、新型コロナ対応は、例えば外交等とは異なり、歴史的な枠組みでの思考がほぼ不可能である。しかも、素早い対応が求められ、日々効果を検証して政策をアップデートしていく必要がある。そうした場合に、仲田先生のするような研究が大きく意義を持つのだろう。そうなった場合に、統計学等に対する一定のリテラシーがあると、学者とのコミュニケーションもスムーズになるよねというご指摘は大変ためになった。
- データ分析の研究の場と実践の場をつなぐ研究者・チームが少ないという課題を知りました。行政の側にも政策過程にデータ分析が組み込まれていないことや人材・部門、リテラシーの不足などの原因があると思います。EBPMが提唱されつつも大きな変化には結びついていないのが霞ヶ関の現状だと思います。研究と実践の架け橋となれるように計量経済学などを勉強していきたいと思います。
- ・モデルというものは、定量的な分析のために使われると思っていたため、定性的分析に用いられることに驚いた。今後政策を考える際には、その定性的な分析としてのモデルが重要だとわかった。
  - ・命の価値分析というのは非常に興味深かった。国や都道府県ごとの差があること自体興味深かったが、それ以上に、政策というものは想像以上に価値観を反映するものだと改めてわかった。数値的なものと、それをどう読み解くかということなのだった。
  - ・公務員としてデータ、分析は、おかしなところを指摘できるくらいできた方がよいというお話には非常に納得できた。
- 自分はマクロ経済モデルに馴染みがあるわけではないのですが、モデルや経

済的な分析の限界を承知しておられながらも、これまでの研究者たちがあまり真正面から分析してこなかった事柄（コロナウイルスの感染状況と経済損失の両立についてなど）を研究されているというお話は、全体にわたって非常に印象的でした。本来ならトライアンドエラーが当然である中で、研究者にとっては不本意にも国民から「なぜ予想と実態が違うんだ」といった厳しい声も届いてしまうのかなと思います。学問の世界からこの社会をいかに改善するかについて研究されているという姿勢に大変感銘を受けました。

- 経済の見通しを見たいのであれば消費モデルや投資モデルを、将来のリスクを分析したいのであれば景気後退予測モデルや Tail Risk モデルを用いるなどのように、一口にモデル分析と言っても目的によって様々な違いがあるのだということに気づくことができた。また、「感染症対策」と「社会経済活動」をどのように両立させていくべきか、という今まさに問われるべき問いについて考える際に、3 回目ワクチンがもたらす追加的な価値を明らかにするなど、モデルがインサイトを提供できることもあるのだと知ることができた点は大きな収穫であるように思う。
  
- 経済分析でモデルがなぜ必要なのかについてに加え、最近はどのようなモデルを使った分析があるのかについてのお話を聞くことができ、非常に勉強になりました。特に印象的だったのは、新型コロナウイルスの感染症対策と経済の両立についてのシミュレーションです。緊急事態宣言を解除する時期が早ければ長期的に経済に悪影響を及ぼす、ということは直感的に思っていたことですが、モデルでシミュレーションを行っても同様の結果が出るという点に驚きました。一方でモデル分析に頼りすぎることはできないとおっしゃっていたことから、今後政策を考えるうえでどれくらいモデルを考慮すべきかが難しいと感じました。

あらためまして、この度は誠にありがとうございました。

以上